

CTGの建交労 とちぎ

発行所 全日本建設交運一般労働組合
栃木県本部 〒327-0315
栃木県佐野市吉水駅前1-2-1
0283-62-7312 fax 0283-62-7318
http://www.kenkourou.or.jp/
E-mail:DQJ06744@nifty.com

組合を大きくする運動に取り組みます まだ組合を知らない仲間を紹介してください



新しく組合員になった仲間と青柳翔太さん(中央)。
青柳さんはダンプ組合員で過労死認定された青柳武さんのご長男です。

組合員からの仲間紹介絶賛大募集中です。
先日二八歳の大工組合員青柳翔太さんから「仲間を紹介したい」と電話をいただきました。
モデルハウス展示場の現場に直行、同じ現場で働く大工仲間二人を紹介していただきました。
一人は工務店で経験を積んで独立する同じ二八歳「大工はやりがいのある仕事です。自分から志望して独立します」。もう一人も三

一歳の若手職人「某大手運送会社で働いていました。将来性を考えて職人の世界に入りました」。
職人の世界も深刻な人手不足が続いています。その一方で、安定よりもやりがいを求める挑戦する若者もいます。
労災や確定申告など、様々な問題を抱えています。相談できるところを知らない人もたくさんいます。
年末年始仲間と集まる機会に、組合を話題にしてください。



1年間の活動を報告、方針を採択しました。

消費税・インボイス学習会も開催 第38回ダンプ支部定期大会

十一月十一日(日)、佐野市あくとプラザ小ホールで、第三十八回栃木ダンプ支部定期大会を七十四人が参加し開催しました。
来賓としてご出席いただいた全労済足利支所の富所支所長は、今年各地で発生した大規模災害の事例を紹介し、自然災害への備えの重要性を訴えました。
栃木県労連の阿波議長はダンプ支部の組織拡大に触れ「組合は数こそ力です。さらなるご奮闘を」と激励していただきました。
川田副委員長が経過報告、石井書記次長が運動方針を提案しました。方針のなかで強調したのは、安倍内閣が来年一〇月から引き上げを強行しようとしている消費税増税問題の取り組みです。
この問題では、山内書記長が学習会を開催、増税だけでなく、インボイス制度についても説明しました。



集会とパレードに参加した組合員。
次世代のためにも、すべての原発の廃炉をめざします。

東海第二原発再稼働反対 「およなら原発・栃木アクション」

十一月十一日宇都宮市城址公園で「さよなら原発・栃木アクション」が開催され約一五〇〇人が参加、組合からも家族を含め人が参加しました。
福島第一原発の事故から七年が過ぎました。全原発廃炉まで運動を進形形です。悲劇は進行形です。
インボイス制度が導入された場合、現在いる約七割の免税組合員が消費税申告をせざるを得ない状況に追い込まれます。廃業、転職を余儀なくされる組合員が大量に発生することが危惧されます。
一人でも多くの組合員が大量に発生することが危惧されます。面的な活動めざすことを確認しました。
十一月十一日宇都宮市城址公園で「さよなら原発・栃木アクション」が開催され約一五〇〇人が参加、組合からも家族を含め人が参加しました。
福島第一原発の事故から七年が過ぎました。全原発廃炉まで運動を進形形です。悲劇は進行形です。
組合員が、制度の問題を理解し、職場、地域で反対の世論を高めること、そして来年の参議院選挙で、インボイス反対の政党、候補者を支援することが重要です。
今後一年、さらに多

運転席から救出 ドライバーの連帯

組合員小山聡さんは一〇月、重機回送のためトレーラーで岐阜県恵那市の国道一九号線を走行中、対向してきた四トントラックがセンターラインをオーバーし正面衝突。小山さん

は頭からフロントガラスに衝突、運転席は大破、出火の危険もある状態ですが、自力では脱出できなくなりました。そこに走行してきたトラックドライバーたちが、力を合わせて助けました。教えてもらえませんでした。

手席をこじ開け、血まみれの小山さんを引きずり出します。寒さに震え意識の朦朧としていた小山さんに毛布をかけ、救急車が来るまで付き添ってくれました。助けてくれたドライバーに連絡先を聞きましたが、教えてもらえませんでした。

運転席の高いボルボだから助かったという説も。



「もし事故を見たら俺も止まってしまうことをしたい」と小山さん。

要介護認定で 障害者控除申請

家族が介護保険の対象になる組合員が増えています。

要介護に認定された方は、所得税、住民税の障害者控除の対象になります。

控除を受けるには自治体に「障害者控除対象者認定書」を申請する必要があります。認定書は自動的に発行されませんが、年内に認定申告から控除を受けることができます。

お問い合わせください。

お問い合せください。

【組合員紹介】 佐藤雄一さん(六九歳)

アスベスト被害者に 国は全面救済を

佐藤雄一さん(那須塩原市)は、50年以上タイル職人として働いてきました。

現場では昭和五十年から原則使用禁止になりました。

しかし、佐藤さんが若いころはまだ普通に使用されており、その危険性も指摘されていませんでした。

浴室のタイル工事などをやるときに、あわせて煙突工事などもやりました。アスベストは耐火性があるため、煙突の接続部分などに普通に使用されていました。

現場では昭和五十年から原則使用禁止になりました。

しかし、佐藤さんが若いころはまだ普通に使用されており、その危険性も指摘されていませんでした。

浴室のタイル工事などをやるときに、あわせて煙突工事などもやりました。アスベストは耐火性があるため、煙突の接続部分などに普通に使用されていました。

現場では昭和五十年から原則使用禁止になりました。

しかし、佐藤さんが若いころはまだ普通に使用されており、その危険性も指摘されていませんでした。

浴室のタイル工事などをやるときに、あわせて煙突工事などもやりました。アスベストは耐火性があるため、煙突の接続部分などに普通に使用されていました。

現場では昭和五十年から原則使用禁止になりました。

しかし、佐藤さんが若いころはまだ普通に使用されており、その危険性も指摘されていませんでした。

浴室のタイル工事などをやるときに、あわせて煙突工事などもやりました。アスベストは耐火性があるため、煙突の接続部分などに普通に使用されていました。

不十分な救済制度

国は「石綿救済法」を制定しましたが、その内容は極めて不十分です。特に特別加入労災に加入していない一人親方や中小事業主にたいしては、救済給付

に格差をつけています。組合では毎年「じん肺キャラバン行動」のなかで栃木県、労働局にたいしても救済制度の抜本的な拡充を求めています。

今年、建設アスベスト訴訟で東京高裁、大阪高裁ともに、国の一人親方への責任が認められ、救済拡充の流れは生まれています。

佐藤さんは毎年2回無料で肺機能検査を受けています。現在のところ自覚症状はありませんが、結果はあまりよくありません。

組合では当面、健康管理手帳の申請に取り組んでいきます。

職歴等で不安のある方はご相談ください。

被害者増の危機

建材メーカーは、アスベストの危険を知りながら安全性をアピールし大量販売してきました。また国は、メーカーの要請を受け耐火建材として使用を促進してきました。

国交省はアスベストが使用された可能性がある建物は、民間だけでも二八〇万棟存在すると推計しており、二〇二八年前後にそれらの解体工事のピークが

くると推計されています。

可能性が指摘され建築



佐藤さんにタイルカッターを見せていただきました。

古い自動車への増税に納得しない男の進行形連載 自動車税払わん⑦

十月下旬、私の勤務先に県税事務所から「給与等の支給状況について」と題する文書が届きました。給与を差し押さえるための調査です。住民税等で職場を調べたのでしよう。

「給与支払者様へ」という文書には、「県税の滞納処分のための財産調査であり」「回答の拒否または虚偽の回答をした者は」「一年以下の懲役

又は50万円以下の罰金」と記載されています。調査項目は、過去3か月の給与支給額や家族構成、支給日、支給口座などです。

普通の職場にこんな文書が来たら会社の人が払うように本人を説得するでしょうね。

残念ながら普通の職場じゃないんです。

一応私が事業主のような立場です

給与差押予告

警告

あなたの納付すべき県税について、再三にわたり自主納付の催告をしてきましたが、いまだ納付が確認できません。

現在 **勤務先への調査中** です。

あなたの勤務先に対し、給与の支払い状況等を調査・照会していますので納付も連絡もない場合は、調査の回答がありしだい給与を差押えます。

だんだん迫力が出てきました

「コストカッター」などと言われ大量の労働者の首を切り、不当に膨大な私腹を肥やしたフランス人が逮捕されました。問題の本質は、組織内民主主義の不在だと思えます。さよならカルロス。